

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象について、問題を見だし、予想・仮説を立て、解決することを通して、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるようにする。	各学年で育成する、問題解決のための力を身に付けられるようにする。(3年:問題を見出す力、4年:根拠のある予想・仮説を発想する力、5年:解決の方法を発想する力、6年:より妥当な考えを作り出す力)。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<p>○観察して調べたことや分かったことなどの結果を、分かりやすく記録する力が弱い。ア</p> <p>○差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができる児童が少ない。イ</p>	<p>○観察の基本的な技能や工夫を児童の実態に応じて指導する。ア</p> <p>○○身の回りの事物・事象への問題を見いだせるようにするため、体験活動を取り入れたり、実生活の体験を想起させたりする。イ</p>	<p>・毎回の授業</p> <p>・随時</p>	
第4学年	<p>○問題解決の流れがようやく理解できている。学習した用語や技能を身に付けることができている。ア</p> <p>○予想や仮説を立てる際、イメージはもてるものの、根拠をもって考えられる児童が少ない。イ</p>	<p>○引き続き問題解決学習の授業を展開する。</p> <p>○生活経験が十分でない児童や、日常の自然事象を想起できない児童の支援として、グループや学級で日常の経験を伝え合う時間をとる。予想や仮説を立てる際は、その根拠を日常の経験などから追記するようにする。イ</p>	<p>・毎回の授業</p> <p>・随時</p>	

<p>第5学年</p>	<p>○身に付けた知識・技能を実生活で活用しようとする児童が少ない。<b>ア</b></p> <p>○実験結果から考察する力が弱い。<b>イ</b></p>	<p>○実生活に結び付けた資料を取り入れる。また、自主学習を通して、授業で学んだことを深められるようにする<b>ア</b></p> <p>○実験結果を受けて自分なりに考えをもてたり、新たな疑問や気付きにつながりしている児童の考察を紹介する。<b>イ</b></p>	<p>・毎回の授業</p> <p>・毎回の授業</p>	
<p>第6学年</p>	<p>○自然の事物、現象を身近なものとならえ、多面的に考えようとする力が乏しい児童がいる。<b>ア</b></p> <p>○問題解決をするための、結果→考察→結論の過程がつかない児童がいる。<b>イ</b></p>	<p>○導入で身近な自然事象を取り入れたり、様々な角度からの実験をしたりして、興味をもたせるようにする。<b>ア</b></p> <p>○結果から分かることを整理して、予想と結果に対応した考えがもてるようにする。<b>イ</b></p>	<p>・毎回の授業</p> <p>・毎回の授業</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>3年 実験や観察の結果を写真等で記録に残すとともに、ロイロノートの提出箱の機能を活用し、全体で共有する。重点：【個別】</p> <p>4年 実験結果を写真や動画で個人やグループごとに撮影し、その後の結果を考察する際に共有する。重点：【協働】</p> <p>5年 実験や観察対象を撮影し、結果を考察する際に共有する。重点：【協働】</p> <p>6年 調べたいことをいつでも調べられるように手元にタブレット端末を置き、追究のための手段の一つとする。重点【個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>3年 生活体験から予想を立て、実験・観察、記録、考察の学習の流れを身に付けられるようにする。</p> <p>4年 問題解決の流れを繰り返すことで、児童が学習の流れの見通しをもてるようにする。予想に十分な時間をとり、主体的な活動を促す。</p> <p>5年 学習を振り返り、新たな疑問や解決方法を発想できるようにする。</p> <p>6年 学習したことを生かして、生活に取り入れたり、さらに発展させて調べたりする活動ができるようにする。</p>
---	---